

課題検討依頼事項についての意見書

「“泉区の地域自治の取組”のこれまでの振り返りと
これからに向けて」

令和元年 12 月 12 日

泉区地域協議会

令和元年度泉区地域協議会第1回定例会にて、泉区長より「“泉区の地域自治の取組”のこれまでの振り返りとこれからのに向けて」というテーマで、課題検討の依頼を受けた。

当協議会では、泉区ならではの地域自治の仕組みについて、課題検討部会での討議に加え、協議会委員及び地区連合会長等にアンケートを実施するなどして、これまでを振り返りつつ、今後に向けて地域及び行政がどのようにすべきか議論を行った。

1 これまでの取組の振り返りと課題

(1) アンケート及び課題検討部会が出された主な意見の要旨について記載する。

① 「泉区の地域自治の取組」全般について

- ・ 泉区独自の取組として導入から10年が経過したが、依然として地域協議会、地区経営委員会などの名称・役割は各地区連合や単位自治会町内会をはじめ、地域に浸透していない。住民に対して直接的な影響が少ないためと考えられ、一般住民の認識とはかけ離れていると感じられる。

② 泉区地域協議会について

- ・ 地域協議会で議論された内容について、各地域でしっかり共有されている地域とそうでない地域に分かれた。地域協議会とは何を目的とした組織なのか、地区連合及び単位自治会町内会の役員、そして住民まで周知することが地域・行政両者に求められている。
- ・ 課題検討部会、各地区の取組紹介（情報交換会）については、有意義な取組であり、自分の地区の地域活動の取組に大いに参考になっている。
- ・ 一方、事業評価部会については、評価にあたって高度な判断力を求められ、委員にとって負担は大きい。実施方法や回数等を見直していく余地は大きい。

③ 地区経営委員会について

- ・ 地区経営委員会の役割である「地域課題の発見と整理」については、多くの地域で実践されている。一方、地域課題の発見までに留まる地域や、地区連合、地区社協等との連携に大きな課題を抱えている地区も見受けられた。
- ・ 現行、12地区一律最大5万円の補助金の制度では、「補助金確保ありきの地区経営委員会」になってしまっている傾向がある。

④ その他

- ・ 地区連合、地区経営委員会、地区社協等との連携がうまく機能している地区を研究したいという意見が多かった。
- ・ 若い世代をうまく地域活動に参加させている地区の取組手法を参考にしたい。これから持続可能な地域活動にしていくためには「若者の視点」は必要になってくる。

(2) 全般的に、「泉区の地域自治の仕組み」について課題は多くあるが、現行の仕組みを見直したうえで、継続していくことが大切であるとの意見が多く寄せられた。

その上で、この仕組みは何のために実施しているのか、何を見直すべきかという視点で、「2 今後、地域で取り組むべきこと」、「3 今後、行政で取り組むべきこと」について議論を交わした。

2 今後、地域で取り組むべきこと

(1) 情報共有のあり方について

- ・ 地区連合の役割と地区経営委員会の役割で重複感が否めない。その点で地域は「誰が」「何を」すべきかに拘った結果、地域活動に縦割り感を生じさせてしまっている。その点をしっかり認識して、地域内の連携の強化に努めていきたい。連携がしっかりしてこそ、互いの信頼関係の醸成につながるものと考えている。
- ・ 地区経営委員会単独で課題解決の役割を担うことは困難である。連合会長等を兼任している地区もあれば、地区連合と地区経営委員会が個別に活動をしている地区もある。大切なことは、地区経営委員会が当該地区の地域課題を抽出して、地域協議会等での意見交換や他地区の事例を参考するなどして、その内容を地域へ還元、共有することである。
- ・ そのためには、地域協議会、地区経営委員会で議論した内容は、地区連合定例会等で情報提供すること。連合定例会等の際に、地域協議会の報告をする時間や地区経営委員会で議論すべき課題を検討する時間を設ける等工夫も大切である。情報提供、情報共有をしっかりとしていくことが、地域内の連携強化につながっていく。
- ・ 情報共有の範囲は区社協や民児協等できるだけ範囲を広げることが望ましい。各地区内で各部署の課題を共有してこそ、地域の全体像が見えるものと考えている。

(2) 担い手確保について

- ・ 地域活動の担い手不足に関しては、定年延長等の時代背景の変化を踏まえ、長期的視点に立ち、課題解決に努めることが求められている。輪番制や役員経験者（OB）による現役役員のサポート等も大切である。
- ・ ボランティア等どんなことを手伝ってくれても感謝、「ありがとう」運動を実施していきたい。価値観をぶつけない、物足りなさを要求しないことが大切である。
- ・ 各地区の好事例の取組を参考にしていきたい。区内のみならず区外でも好事例があれば参考にしていきたい。
- ・ 若者の視点、女性の視点を積極的に取り入れる心構えと姿勢が大切と考えている。女性の役員が多くなった場合、地域行事の役割分担を見直す等柔軟な姿勢が求められる。「継続」させていくことを大切にし、負担感を与えない工夫もしていきたい。
- ・ 地域の防災訓練で地域の小学生や中学生の参加者が増えてきている。小学生高学年、中学生の力は大切。地域と行政で学校に働きかけていくことも重要になる。かつ、地域、学校、家庭のつながりをより強めていき、現役世代の掘り起こしを行っていきたい。
- ・ 地域活動は健康増進にもつながることを自分たちが周囲にPRし、地域全体を巻き込んでいくという気概を持ち続けたい。
- ・ 自分のやりたいことはボランティアで参加してもらえという地域が多かった。ボランティアの「何か地域のために貢献したい」という熱を冷まさないためにも、活動内容とやりたいことをマッチさせるための仕組みを作っていきたい。
- ・ 最近になり「自助」「共助」「公助」という言葉が多く聞かれるようになった。地域で可能なことは極力地域で解決していくことが大切であると同時に、地域・行政で問題点を共有して解決していく姿勢が大切である。
- ・ 地域活動への参加が負担とならないような、ちょっとした行事へのお手伝いなど各地区の取組事例を共有していくべきである。

3 今後、行政が取り組むべきこと

(1) 情報共有のあり方について

- ・ 広報よこはまやタウンニュース等と連携し、自分の住んでいる地域に興味・関心の薄い区民に対して各地区の取組の発信を継続すべきと考えている。泉区地域協議会は、委員にとって各地区の情報が得られる貴重な場であると考えているので、地域協議会の年間計画や活動内容を紹介する機会を設け、泉区地域協議会の知名度を高める工夫をしてほしい。
- ・ 行政職員が、連合定例会や各地区経営委員会など引き続き地域の会合の場に参加することで「顔の見える関係づくり」にこれからも継続して取り組んでもらいたい。泉区地域協議会や地域と区のつどいの機会を通じ、区として重要（重点）な取組については、タイムリーに情報提供して欲しい。
- ・ 行政もこれまで以上に地域の事情、特徴を知って欲しい。地域を良く理解している職員ほど情報が伝わりやすく、課題を共有することができる。

(2) 担い手確保について

- ・ 地域活動を継続させていくために担い手を確保することは大切だが、従来の考え方では担い手の確保が難しくなっている。泉区地域協議会等の場を通じて、他地区の取組を学ぶ機会を増やして欲しい。事例としては、区内にとどまらず、他区、市外の団体のことも紹介して欲しい。
- ・ 若者に担い手になっていただくことは、現状なかなか難しい。かつ、若者が地域活動に対し、どのような考え方を持っているのかよくわからない。昨年度の地域協議会で「若者サミット」の話がでていたが、若者の意見を聞く機会はずいぶん設定していただきたい。NPO法人や民間事業者等との連携を進め、行政がコーディネート役を担ってほしい。
- ・ 地域活動にあまり興味のない区民に対し、興味を持っていただくための工夫を地域と行政で考えていく必要がある。

(3) その他の行政支援について

- ・ 地域自治を推進するためには、継続的な地域活動が必要になってくる。事業を始めるには何かと資金が必要になる。現在、12地区に最大5万円まで支給される地域運営補助金制度はあるが、使い勝手が悪いので、用途や金額等を再検討していただきたい。かつ、地域で解決できない課題等について、相談することのできる人材をコーディネートしていただきたい。
- ・ 地域の相談窓口は、区役所や地域ケアプラザ、泉区社会福祉協議会等あるが、地域の課題や行事等の情報は、区役所、地域ケアプラザ、泉区社会福祉協議会をはじめ、市の部局等の関係機関も含めて、共有していただきたい。
- ・ 地域課題を共有する場として「地域と区のつどい」があるが、従来の「要望型」のみではなく、区の政策を地域の課題解決に結びつけるものであって欲しい。